

研究課題番号	SⅡ-2-1
研究課題名	海洋プラスチックごみの沿岸～地球規模での海洋中の分布状況及び動態に関する実態把握及びモデル化
研究実施期間	平成30年度～令和3年度※
研究機関名	九州大学
研究代表者名	磯辺 篤彦

※新型コロナウイルスの影響のため、令和2年度から延長

## 1. 委員の指摘及び提言概要

Missing Plastics に生物過程が関与していることを示唆する結果は、非常に重要で高く評価できる成果である。また、海面近くのマイクロプラスチックの寿命を3年程度と推定した成果についても、今後の対策を考えるうえで大きく貢献するものと判断する。学術的成果も、政策貢献も申し分ない成果を発出しており、高く評価できる研究である。具体的には、50年予測に繋がるグローバル再現モデルの Nature 誌への掲載と G20 ステートメントや UNEA 会議への貢献などであり、チームの学術研究とチームリーダーの研究管理の高いポテンシャルを証明している。

他の研究者と連携し、将来に向けて、どのような研究、どのような対策が必要なのかを示していただくことを望む。このまま対策・対応無く進むと、最悪どのような状態になるのかという良質な「最悪のシナリオ」があると、それを改善させるための研究・政策（対策）につながるかもしれない。

## 2. 採点結果

評価ランク：S